

新型コロナ感染者の 23 パーセントが後遺症の疑い…東京都が後遺症専門サイトを開設

8/15 FNN プライム



FNNプライムオンライン (FNNプライムオンライン)

東京都の新型コロナウイルスの感染者数が 2 週連続で減少したが、一方で後遺症に悩む人が多く、都は専用サイトを開設した。

8月5日からの1週間で都内で報告された1医療機関あたりの新型コロナ感染者数は5.49人で、前の週の7.25人から減少した。

こうした中、渋谷区のクリニックには後遺症に悩む患者が連日受診に訪れている。

こちらに通う30代の男性は、2年前の夏に新型コロナに感染してから重い後遺症に苦しみ、「外にでかけることができない1~2分が限界。シャワー浴びるのもきつい」という。男性は会社も解雇させられたと話した。

東京 iCDC 後遺症タスクフォースのメンバーでもある平畑光一院長は、コロナに感染したら無理な運動などは控えるべきだと指摘する。

平畑院長は、「倦怠感、ブレインフォグ(=脳の中に霧がかかったようになる症状)が中核的な症状。200種類くらいあり会社や学校に行けなくなるケースがあります。(コロナの変異により)感染による重症化が軽くなったという話もありますが後遺症はまったく前と同じままです。大事なことは、頑張りすぎないことコントロールして無理せず管理すること。

そして、何よりもコロナにかからないようにするのが大事」と話した。

東京感染症対策センターの調査では、新型コロナ感染者のうち23パーセントが後遺症の疑いがあり、その87パーセントの人が日常生活への支障があったという。

東京都は8月13日、後遺症に関する専用サイトを開設して、受診可能な医療機関のリスト、企業や学校向けのリーフレットも掲載するなど後遺症についての情報を発信している。

★<https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2024/08/13/05.html>

ご自身や周りの方に後遺症を疑う症状がある場合などに、ご活用ください。